

清新の気

学校だより
No. 7
大津市立栗津中学校
平成29年12月6日発行
全校生徒 513名

1・2年生校外学習

11/22

11月22日（水）に、1・2年生の校外学習を実施しました。1・2年とも、事前に見学地について調べ、班ごとに行程表を作成し当日を迎えました。実物の見学を通して、歴史や文化をしっかりと学んだことだと思います。今回の経験を3年の修学旅行に活かしてほしいと思います。

1年大津市内班別自主研

1年生は京阪電車大津線沿線で班別自主研を行

いました。市内にある有名な神社仏閣や埋蔵文化財調査センターなどの施設を見学しました。普段の生活で、近くを通っていても、あらためて訪れると「こんなすごいところやったんや」という声が聞かれました。



日吉大社にて

2年京都市内班別自主研

2年生は京都市内での班別自主研です。交通手段もバス、地下鉄などを利用し広いエリアを巡りました。行楽シーズンの京都は観光客も多く、事前の計画どおりにはいかなかった班もあったようですが、秋の京都を満喫しました。



いざ銀閣寺へ

栗津中学校

「学ぶ力向上策」策定（裏面）

本校では、4月に実施しました全国学力・学習状況調査（3年生対象）の結果を受け、10月末に「我が校の学ぶ力向上策」を策定し、3年生の保護者に配付しました。この「我が校の学ぶ力向上策」は、3年生だけに限らず、今年1年間の本校の学習の指針となるものです。裏面に掲載しますので、ご一読ください。

なお、本校のホームページでは、「我が校の学ぶ力向上策（ビジュアル版）」と合わせて、全国学力・学習状況調査の結果として「我が校の強み弱み分析・評価シート」を公開しています。

3年国際理解学習 12/1

3年生は、12月1日（金）の午後、海外駐在経験のある方を講師に招き、国際理解学習を行いました。講師の先生から貴重な体験談を伺いました。今回の学習では、文化や生活習慣の違いを学び、グローバル社会について考えるとともに、外国への興味も持つことができました。



弁護士による講演会

11/24

11月24日（金）ははじめの問題について考えるため、植平弁護士を招いて、1・2年生対象に講演会を行いました。講演では、具体的な例をあげて、わかりやすく話していただきました。



普段の生活で、弁護士の方とは接する機会はありませんが、「なぜはじめは許されないのか」を、法律的な側面から考える機会となりました。

保護者の皆様へ

■学校評価のお願い

本校では、毎年この時期に保護者の皆様を対象に学校評価を実施しています。学期末の保護者懇談会で「保護者用振り返りシート」と返信用封筒をお渡ししますので、12月22日（金）までに、お子様を通じてご提出いただきますようお願いいたします。回収率100%を目指しています！

■PTA役員選出会のお知らせ

1月26日（金）に授業参観と平成30年度PTA役員選出会を行います。また、同日に第6ブロック地区委員選出会もありますので、お知らせします。

■学校閉校日のお知らせ

本年も下記の期間を年末年始に伴い、学校閉校日としますので、お知らせします。

・閉校期間

12月29日（金）～1月3日（水）

I. 本校の学力・学習状況に係る課題〔H29「全国学力・学習状況調査」の結果より〕

- 国語・数学ともに学力定着状況に二極化傾向が見られる。
- 2教科ともに平均して無解答率が高く、特に文章で答えたり説明したりする記述式問題が全国平均と比較して高い状況にある。しかし、その一方で数学ではその正答率が高くなっている。

【国語】全体の正答率は、全国平均並みだが、A問題では、全国平均を上回っている。「話すこと・聞くこと」の正答率は高いが、「漢字の書き取り」や言語に対する知識理解が低い。そのことは「書く力」の弱さの一因にもなっていると考えられる。

【数学】全体の正答率は、全国平均並みだが、A・B問題ともに「図形」の正答率が高く、B問題では、記述式問題の無解答率が高い反面、正答率は全国を上回っている。「資料の活用」の正答率も高い。

【学習状況調査】

《国語》学習の大切さや社会での必要性に対する意識が全国平均と比べ低く、「勉強は好き」・「授業内容はよく分かる」と回答した生徒も全国平均を下回る。

《数学》学習の大切さや社会での必要性に対する意識は、全国平均より低い。また、「できるようになりたい」という気持ちはあるものの、授業が分からず苦手意識を持つ生徒が多く、「嫌い」と回答した生徒が全国を上回っている。

II. 学力向上へのアプローチ

◆ 本校の実態分析から学力向上に向けた改善策

1. 教科指導《国語》・《数学》における改善策

- 【国語】
- ◇ 語彙力を高め、漢字の定着を図る。… 生徒の身近な話題提供、漢字の面白さを伝える等。
 - ◇ 文章を書く作業を授業に多く取り入れ、書くことへの抵抗を和らげる取組を行う。
 - ◇ 授業中の「基礎」・「ジャンプ」の課題と関連づけた家庭での学習課題を提供する。
- 【数学】
- ◇ 毎授業の中で「できた」・「わかった」と思える問題・場面を設定し、次時への学習意欲へとつなげる。
 - ◇ 基本的な計算力を定着させる取組として、計算問題の小テストや練習プリントを活用する。授業の復習となる基礎・基本の家庭学習を提供する。
 - ◇ 授業の中で、自分の言葉を使って説明したり表現したりする場面を意図的に設定し、思考力を身に付けさせる。



2. 主体的な学びを支える学習支援

(1) 「学び合い」学習の推進

- コミュニケーション能力の育成を図るため、毎授業で2つの課題(基礎・ジャンプ)を設定し、話し合い、教え合う時間を確保し、聞く姿勢や発表・伝え合う工夫等も習得させる。
- 生徒同士が教え合い、学び合える授業づくりを推進するとともに、学習集団に互いの発言を認め合う共感的風土を醸成し、どの子も学習に参加でき、自尊感情の高まる学級づくりを推進する。

(2) 「全校一斉朝読書」の推進〔月～金：8:25～8:35〕

- 朝読書により、他者の意見に耳を傾け、自らが考えを持ち、生きる力を育むと同時に、心落ち着かせて1日の学習に臨む姿勢や学習習慣を築く。



(3) 基礎学力の定着

- 長期休業中の里親制度(個別学習支援)や定期テスト事前補充・質問教室を開講し、学習のつまずきに対するきめ細かな支援を実施し、基礎・基本の定着を図る。
- 学力下位生徒に学習習慣を身につけさせるため、各教科から計画的な課題(宿題)提供に努め、家庭での主体的な学習の充実と課題達成の充実感を味わわせる。

(4) 家庭との連携

- 家庭での学習環境づくり〔家庭での学習時間、テレビやビデオ・インターネット・スマホ等の視聴時間〕についても情報発信に努め、保護者と連携しながら環境調整に努める。

(5) 教育のユニバーサルデザインの推進

- 毎授業に目標を持ち意欲的に取り組めるよう、授業始めには「本時のめあて・ねらい」を明示し、終わりには「振り返り活動」の時間を設定する。
- 授業に限らず、行事・部活動等、学校生活全般にわたり、どの子にも「あると便利」な支援を増やし、過ごしやすい学校づくりを推進する。

3. 校内研究の充実

【研究テーマ】魅力ある教育実践への挑戦 — 「対話」と「協同の学び」を軸とした学校づくり—
今年度12年目を迎えた「学び合い」学習を授業改善の柱に据え、授業研究会(学期毎：年3回)や夏季研修会、公開授業、先進校研究視察等々を通して、学びの質的向上を図る。

III. 学力向上策の検証

- ◆ 「全国学力・学習状況調査」の結果分析と併せて、生徒・保護者による学校評価アンケート(「学校振り返りシート」)、教師による自己評価、各教科における評価等々を分析し、学ぶ力向上策の実践状況や妥当性を検証し、次年度に向けた更なる改善策を再考し提言していく。